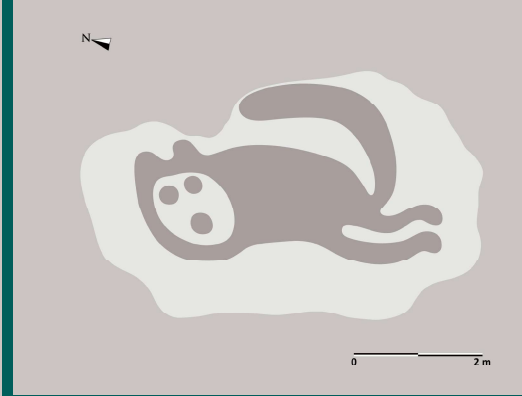
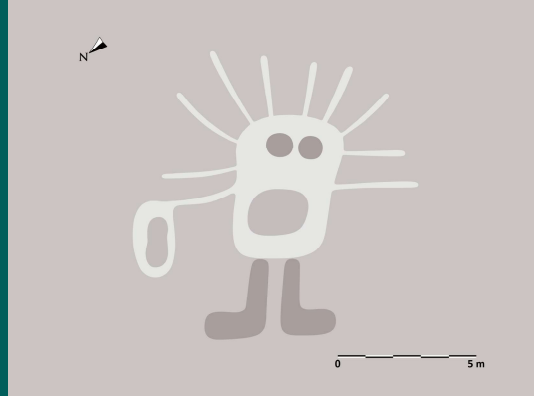
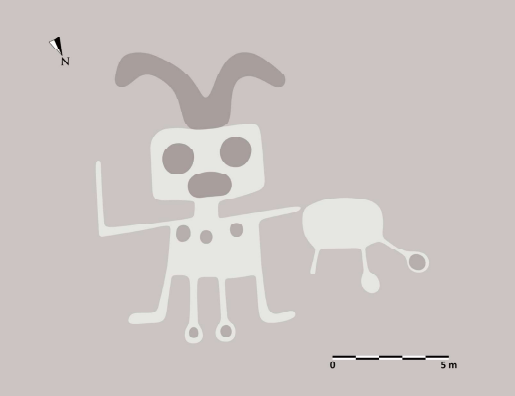




国際学術講演会

テクノロジー が解き明かす

Nasca Archaeology and Technology

古代 ナスカ 社会

聴講無料

事前申込不要

定員：200名
(先着順)

5/18 ²⁰²⁵ **日** **14:00 ▶ 16:30**

会場：山形大学

人文社会科学部 1 号館 **301** 教室

開場は13:30です

古代ナスカ社会には、地上絵をはじめとする多くの謎が秘められています。本講演会では、人工知能を活用して新たな地上絵の発見と分析を行う山形大学の研究成果を紹介するとともに、最先端の技術を用いて古代ナスカ社会の実像に迫るケビン・ヴォーン教授（カリフォルニア大学リバーサイド校）をお迎えし、ナスカ研究の最前線をご紹介します。先端技術と考古学の融合が、古代文明にどのような新たな光を当てるのか——その可能性を一緒に探ります。

主催

山形大学ナスカ研究所

国立民族学博物館

共催

山形大学人文社会科学部

科学研究費補助金基盤研究(A)「ナスカの地上絵を用いた『読み書き』行為の実態解明：人工知能と実証的アプローチの融合」

研究代表者：坂井正人（山形大学学術研究院教授）

プログラム

14:00 開会

14:10 - 15:00

講演「人工知能を利用した世界遺産ナスカの地上絵研究」

坂井正人（山形大学学術研究院教授）

15:00 - 15:10 休憩

15:10 - 16:10

講演「ナスカ考古学を探る：ペルー南海岸の古代ナスカに迫る最新技術の応用」

Dig in to Nasca Archaeology:

Recent Technological Applications Advancing our Knowledge of Ancient Nasca, South Coast of Peru.

ケビン・ヴォーン（Kevin J. Vaughn） 英語（逐語通訳あり）

（米国カリフォルニア大学リバーサイド校教授・山形大学客員教授）

16:10 - 16:30

質疑応答

司会進行・通訳 松本雄一（国立民族学博物館准教授）

16:30 閉会